

備前市事務事業評価表

事業の概要		コード	01-02-02-01
事務事業名	放置自転車・自動車対策事業		
事業開始年度	平成11年度～		
根拠法令・要綱等	備前市自転車等放置防止条例 放置自動車の発生の防止及び適正な処理に関する条例		
大項目 基本目標	安全で快適に暮らせるまちづくり	問合先	環境課
中項目 基本施策	自然と共生するまちづくり	職・氏名	衛生係長・森本和成
小項目 施策	環境美化	電話	64-1821

事業の実施	
対象 (誰・何に対して)	公共の場所 (公衆用道路等) の環境美化に努める市民
目的 (何のために)	公共用地の環境美化を図るため
行政活動 (どのような方法で)	放置自転車への警告札の取り付け、撤去、保管、処分 放置自動車の処分 (必要があれば廃物判定委員会を開催する)
事業の意図する成果 (どのような状態にしたいのか)	交通安全の確保、景観の保全

事業の実績						
活動実績	実施項目	単位	平成17年度実績	平成18年度実績	平成19年度実績	
	放置自転車等撤去	台	82	91	98	
	放置自転車等処分	台	51	72	79	
	引取件数	台	0	5	3	
	放置自動車処分	台	0	0	0	
事業費	直接事業費	千円	0	0	0	
	人件費	千円	1,412	1,250	869	
	事業費計	千円	1,412	1,250	869	
財源	国県支出金	千円				
	受益者負担	千円				
	一般財源	千円	1,412	1,250	869	
	必要人員	人	0.18	0.34	0.11	
結果指標	結果指標名	単位	平成17年度実績	平成18年度実績	平成19年度実績	
	放置自転車等撤去台数	説明	公共の場所における放置自転車の撤去台数			
	結果指標量	台	82	91	98	
	対前年比	%	-	111.0%	107.7%	
	活動コスト	円	1,412,000	1,250,000	869,000	
	単位当たりコスト	円	17,220	13,736	8,867	
結果指標	結果指標名	説明	単位	平成17年度実績	平成18年度実績	平成19年度実績
	放置自動車	公共の場所における放置自動車の処分台数				
	結果指標量	%	0	0	0	
	対前年比	%	-	-	-	
	活動コスト	円	0	0	0	
	単位当たりコスト	円	0	0	0	

事業の成果			
成果指標名	放置自転車等人口割合	式又は説明	(放置自転車の台数 / 4.1現在の人口) × 100
成果指標量	17年度 0.19	18年度 0.22	19年度 0.24
対前年比		115.79%	109.09%
到達目標値	0.17	到達目標年度	平成23年度

事業の目的、対象、内容を考えながら目的妥当性の評価を行って下さい。

事業費や単位当たりコストに留意しながら効率性の評価を行って下さい。

事業の目的やその数値目標である成果指標に留意しながら有効性の評価を行って下さい。

事務事業の評価		(平成19年度事業)	
目的	<input type="checkbox"/> 開法令等で目的が定められており妥当である (法律・政省令)	妥当性評価 <A-E>	A
	<input checked="" type="checkbox"/> 現在の市を取り巻く環境からも目的は妥当である	課題認識	
行政活動	<input type="checkbox"/> 事業開始当初の目的は、ほぼ達成されている	公共の場所における放置自転車・自動車は、交通安全を阻害するだけでなく、景観や環境の保全についても悪影響を及ぼす。したがって事業をとりやめた場合の影響は大きいと考えられる。	
	<input type="checkbox"/> 事業開始当初の目的から変化している		
事業の意図する成果	<input type="checkbox"/> 対象を見直す必要がある	効率性評価 <A-E>	
	<input checked="" type="checkbox"/> 現在の市を取り巻く環境からも事業の意図する成果を見直す必要はない		
市民ニーズ	<input type="checkbox"/> 市民、団体などから要望・要請の強い事業である	課題認識	
	<input checked="" type="checkbox"/> 本市が関与しなければならない事業である	事業費人件費であるため事業のコスト削減は厳しい。処分する自転車については、最終処分場に搬入し、解体して金属部分を売り払って財源を確保する。自動車の処分はここ数年実績がないので分析ができないが、コストのわからない処分方法を検討する必要がある。	
市の関与	<input checked="" type="checkbox"/> 事業を取り止めた場合の市民への影響は大きい	有効性評価 <A-E>	
	<input type="checkbox"/> 事業を取り止めた場合の市民への影響は克服できる範囲内である		
コスト	<input type="checkbox"/> コスト削減の努力をしており、低減余地は大きい	課題認識	
	<input checked="" type="checkbox"/> コスト削減の努力はしているが、低減余地は小さい	事業費人件費であるため事業のコスト削減は厳しい。処分する自転車については、最終処分場に搬入し、解体して金属部分を売り払って財源を確保する。自動車の処分はここ数年実績がないので分析ができないが、コストのわからない処分方法を検討する必要がある。	
効率性の評価	<input type="checkbox"/> サービスを低下させずにコストを低減することは困難	有効性評価 <A-E>	
	<input type="checkbox"/> 受益者負担額を見直す余地がある		
職	<input checked="" type="checkbox"/> サービスを維持するためこれ以外、他に手段が見当たらない	課題認識	
	<input type="checkbox"/> 最適な手段を求め職場内で改善に努めている		
目的達成度	<input type="checkbox"/> 現在の手段は過剰なサービスのため、改善の余地がある	課題認識	
	<input checked="" type="checkbox"/> 事業に関して事務改善等作業効率の向上に努めている	撤去件数が微増しているため、迅速な対応をして、同じ場所への放置自転車の発生を防止する。	
成果向上の可能性	<input type="checkbox"/> 事業に関するOJT (職場研修) は行われている	課題認識	
	<input type="checkbox"/> 事業実施について、職員の意見・要望が反映されやすい		
市民参画度	<input type="checkbox"/> 成果指標の目標値は目標年度に達成できそうである	課題認識	
	<input type="checkbox"/> 成果指標は前年度より向上している		
市民参画度	<input checked="" type="checkbox"/> 成果は向上しており今後も向上する見込みである	課題認識	
	<input type="checkbox"/> 今後、成果指標は向上する余地がある	撤去件数が微増しているため、迅速な対応をして、同じ場所への放置自転車の発生を防止する。	

平成20年度の状況		説明
<input type="checkbox"/> 重点化している	<input type="checkbox"/> 休止している	
<input checked="" type="checkbox"/> 前年度と同様に継続している	<input type="checkbox"/> 他の事業と統合している	
<input type="checkbox"/> 見直し継続している	<input type="checkbox"/> 平成19年度で真止・完了	
<input type="checkbox"/> 事業を縮小している		
目標値	結果指標量 70	結果指標量 0
成果指標量	0.17	

総合評価		評価区分 <A-E>	C	
市民からのニーズが高く、今後とも継続していく必要がある事業である。迅速な対応を行って、同じ場所に放置されないように心がけていく必要がある。自転車についてはコスト削減が難しいが、自動車については今後処理費用のかからない方法を検討していく必要がある。				

平成21年度以降の方向性	
<input type="checkbox"/> さらに重点化する(行政資源を集中的に投入する)	<input type="checkbox"/> 事業の縮小を検討する
<input checked="" type="checkbox"/> 現状のまま継続する	<input type="checkbox"/> 休止・廃止を検討する
<input type="checkbox"/> 見直しのうえで継続する	<input type="checkbox"/> 他の事業と統合を検討する
<input type="checkbox"/> 平成20年度で廃止・完了	

平成21年度以降の改善事項			
評価の視点	改善内容	改善時期	改善により期待される効果